

Ⅲ. 地域報告

2009年度3回シリーズ 講師：吉川 綾子（看護師：真奈美鍼灸治療院）

日 時	内 容
2009年 7月11日 10:00～16:00	10:00～12:00 「リンパ浮腫ケア概論」 ～リンパ浮腫ケアの現状、流れ、看護の位置づけ～ Ⅰ リンパ浮腫とは ①浮腫の定義、種類、要因 ②リンパ管系の解剖 ③リンパ浮腫の発生機序 ④リンパ浮腫の症状 Ⅱ リンパ浮腫の治療 ①薬物療法、手術療法、②複合的理学療法 Ⅲ リンパ浮腫のアセスメント ①問診、情報収集の仕方、②ケアプランの立て方、③ケアの、実践・評価 Ⅳ リンパ浮腫の予防と日常生活指導 13:00～16:00 「適切な弾性着衣の選択」 Ⅰ 弾性着衣とは ①弾性着衣の目的、種類、②対象にあった弾性着衣の選択、③装着の仕方（自分で、他人へ）、④取り扱い方法 Ⅱ 質疑応答
2009年 8月8日(土) 10:00～16:00	10:00～12:00 「婦人科がん術後リンパ浮腫患者へのセルフケア指導」 Ⅰ 婦人科がんにおけるリンパ浮腫の発生機序 ①婦人科がんにおけるリンパ浮腫リスク Ⅱ 事例を通してケアプランを考える ①未発症患者に対するケア、②浮腫発症した患者へのケア、③再発がんに対する患者へのケア、④婦人科がん以外の下肢リンパ浮腫のケア 13:00～16:00 「下肢リンパ浮腫セルフドレナージの実践」 Ⅰ リンパドレナージの実際（デモンストレーション並びに手技の確認） Ⅱ 排液路の考え方と実際 Ⅲ セルフドレナージ Ⅳ 圧迫療法復習 Ⅴ 質疑応答
2009年 9月12日(土) 10:00～16:00	10:00～12:00 「乳がん術後リンパ浮腫患者へのセルフケア指導」 Ⅰ 乳がんにおけるリンパ浮腫の発生機序 ①乳がんにおけるリンパ浮腫リスク Ⅱ 事例を通してケアプランを考える ①未発症患者に対するケア ②浮腫発症した患者へのケア ③再発乳がんに対する患者へのケア 13:00～16:00 「上肢リンパ浮腫セルフドレナージの実践」 Ⅰ リンパドレナージの実際（デモンストレーション並びに手技の確認） Ⅱ 排液路の考え方と実際 Ⅲ セルフドレナージ Ⅳ 圧迫療法復習 Ⅴ 質疑応答

2010年度

2011年 1月15日(土) 10:00～13:00	リンパ浮腫研修会「看護師が行うリンパ浮腫ケア」 講師：松尾 久美（長崎大学病院 がん性疼痛認定看護師） 内容：がんの終末期におけるリンパ浮腫ケアについて 参加者：18名（病院看護師3名、訪問看護師15名）
----------------------------------	---

⑨薬剤師向け講演会 2009年度

2009年 10月31日(土) 19:00～21:00	在宅療養における薬剤師の役割と実際 講師：高瀬 久光先生／福岡大学薬剤部 萩田 均司先生／（有）メディフェニックスコーポレーション 薬局つばめファーマシー 参加者：135名（市内108名、市外27名）
-----------------------------------	--

Ⅲ. 地域報告

⑨施設職員向け緩和ケア研修会（2010年度）会場 長崎市医師会館 7階講堂

2010年

多死の時代と推計されているが、現在病院死が全死亡の約8割を占めている。今後も病床数減少の医療改革が進められていることや、人生終焉の時を病院ではなく住み慣れた自宅でというQOLの視点もある。いずれにしても、高齢者の終焉をどこで迎えるかは、今後大きな問題となってくるが、その終焉場所として看取り機能もふくめ社会的に期待されているのが、特別養護老人ホームを代表とする施設や居住系施設（グループホームや有料老人ホーム）である。しかし現状において、その看取りの実態や数については明らかではない。この背景を踏まえ、長崎独自に施設職員向けに研修会を企画・実施した。

OPTIMを機に、長崎県下の各施設の看取りについての実態からを明らかにした上で、OPTIM長崎として、施設での緩和ケアの実施にむけ施設職員対象の研修会を独自に企画しシリーズで開催することとした。

メインテーマ：「つらさに寄りそい支え合うために」

日 時	内 容
2010年 5月19日(水) 19:00～21:00	第1回「今、施設で取り組む緩和ケア」—つらさに寄り添い支え合うために— 講師：「緩和ケアとはつらさを和らげること？」 1. 施設職員へのアンケートの実施と結果 講師：奥平 定之（奥平外科医院） 2. 緩和ケアとは？ 講師：富安 志郎（長崎市立市民病院 緩和ケアチーム） 3. つらい気持ちの捉え方 講師：蓬萊 彰士（長崎医療センター 精神科） 参加者：100名
2010年 6月23日(水) 19:00～21:00	第2回 オリエンテーション「1回目研修アンケート結果と本日の研修オリエンテーション」 「OPTIM長崎」施設職員研修担当：奥平 定之（奥平外科医院） パネルディスカッション テーマ「緩和ケア実践のために…長崎での取り組みを紹介」 (1) 小柳美保子「ざんなんで目指す緩和ケア」 有限会社グルーホーム ざんなん (2) 榎本哲子「これまでの看取りをふりかえる」 特別養護老人ホーム 青葉苑 (3) 池原 香「緩和ケア実践のために～介護の現場から～」 特別養護老人ホーム のぞみの杜 (4) 高瀬 絵美「できることから始めたい緩和ケア」 長崎県看護協会訪問看護ステーション YOU (5) 中尾勘一郎「施設での緩和ケア実践のために…医師の立場から」 ホームホスピス中尾クリニック 参加者：87名
2010年 7月22日(木) 19:00～21:00	第3回「今、施設で取り組む緩和ケア」—つらさに寄り添い支え合うために— 1. オリエンテーション「第2回目の研修会アンケート結果について」 2. 講演①「有料老人ホームでの取り組み」ランドホームゆくはし 佐藤 弘樹さん 講演②「グループホームでの取り組み」さわやかテラス 平山 正明さん 堀 美砂さん 3. 質疑応答 4. 施設職員向け緩和ケア研修会の総括 参加者：81名

(3) その他のトライアルおよび取り組み

1) 長崎で開催された「緩和ケア」「がん医療」「地域連携」に関わる研修会を後援、共催した。

2008年度

Ⅲ. 地域報告

日 時	内 容
2008年 6月21日(土)	①長崎地域連携懇話会 (OPTIM 長崎後援) 「症例検討のロールプレイ」 講師：中尾勘一郎 (医療法人光善会長崎百合野病院 在宅・緩和ケア部) 北條美能留 (長崎大学病院 緩和ケアチーム) 後藤 慎一 (日赤長崎原爆病院 緩和ケアチーム) 参加者：48名
2008年 7月9日(木) 19:00~21:00	②第7回長崎在宅 Dr. ネット症例検討会 (OPTIM 長崎後援) 「在宅での看取りを実現できた二症例～家族を支えた在宅主治医のホンネ～」 症例1 疼痛コントロールに大量のモルヒネを要し、大量出血のリスクを抱えながらも在宅で看取りができた症例 ～そして主治医は患者に泊まった～ 症例2 腹膜透析を施行した末期癌症例 ～主治医と透析担当医の分業～ 講師：安中 正和 (安中外科・脳神経外科医院 院長) 宮崎 正信 (宮崎内科医院 院長) 行成 壽家 (ゆきなり・クリニック 院長) 参加者：157名
2008年 8月22日(金)	③がん診療連携拠点病院研修会 (原爆病院) (OPTIM 長崎共催) 「がん患者の退院支援・調整」 講師：宇都宮宏子 (京都大学医学部附属病院) 参加者：216名
2008年 9月6日(土)	④第7回長崎緩和ケアセミナー (OPTIM 長崎後援) 講師：松島 英介 (東京医科歯科大学 准教授) 参加者：248名 参加者：100名
2008年 10月18日(土) 16:00~18:00	⑤第1回病診連携フォーラム in 長崎 (OPTIM 長崎後援) 「患者本位の地域医療連携と在宅医療」 講師：片山 壽 (尾道市医師会長、片山医院 院長) 参加者：216名 (医師：27名)

2009年度

日 時	内 容
2009年 9月5日(土) 14:00~17:00	①第8回長崎緩和ケアセミナー (OPTIM 長崎後援) 事例検討 1) 病院からの在宅移行における諸問題 長崎市立市民病院地域医療連携室 MSW 宮川 江利 2) 在宅での多職種連携の諸問題 佐世保中央病院副院長 碓 秀樹 特別講演 「終末期がん患者のスピリチュアルペインとそのケア」 ノートルダム女子大学生生活福祉文化学教授 村田 久行
2009年 9月26日(土) 13:00~16:00	②第3回長崎緩和ケアナース研究会 (OPTIM 長崎後援) 講演Ⅰ「原爆病院における緩和ケア認定看護師の活動」 日赤長崎原爆病院 緩和ケア認定看護師 出田 知加子 講演Ⅱ「長崎市立市民病院における緩和ケアチーム専従看護師の現状と今後の課題」 長崎市立市民病院 緩和ケア認定看護師 内田 新 講演Ⅲ「呼吸困難を呈する患者への看護的アプローチ」 長崎大学病院 緩和ケア認定看護師 薄田 みわ 講演Ⅳ「頭頸部外科病棟におけるe-ノートローテーション」 長崎大学病院 緩和ケア認定看護師 中嶋 由紀子 講演Ⅴ「地域緩和ケアチームによる包括的緩和ケア」 長崎がん相談支援センター 看護師 平山 美香 【特別講演】 「疼痛管理における看護師の役割」 国立病院機構長崎医療センター がん性疼痛認定看護師 有森 葉子

Ⅲ. 地域報告

<p>2009年 11月7日(土) 15:00~17:00</p>	<p>③ NPO 法人 長崎在宅 Dr. ネット 第1回市民健康講座 (OPTIM 長崎後援) 講演「NPO 法人 長崎在宅 Dr. ネットのご紹介」 出口 雅浩 (出口外科医院副院長) 特別講演「がん患者は家に帰ろう」 大頭 信義 (医療法人社団 だいたう循環器クリニック院長) 参加者:139名</p>
<p>2010年 2月12日(金) 18:45~</p>	<p>④長崎サイコオンコロジー学術講演会 (OPTIM 長崎後援) 平成21年度第3回長崎県がん診療拠点病院研修会 講演「長崎医療センターでの緩和ケア活動について」 国立病院機構 長崎医療センター 精神科 蓬萊 彰士 特別講演「緩和ケアにおける日常診療～精神科医の立場から～」 埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍学 教授 大西 秀樹 参加者:46名</p>

2010年度

日 時	内 容
<p>2010年 9月4日(土) 19:00~</p>	<p>①第9回長崎緩和ケアセミナー (OPTIM 長崎後援) 「末期がん患者へのスピリチュアルケアの実際～患者とのコミュニケーション～」 講師:澁川キリスト病院 チャプレン 沼野 尚美 先生 参加者:247名</p>
<p>2010年 10月8日(金) 19:00~</p>	<p>②第2回緩和ケアチーム症状緩和検討会 (OPTIM 長崎後援) 講演Ⅰ「フェントステープ1日1回製剤の有用性と今後の展望」 久光製薬株式会社 学術担当 松岡 一忠 氏 講演Ⅱ「ギアチェンジがうまくいかなかった事例」 長崎市立市民病院 緩和ケアチーム 専従看護師 内田 新 氏 講演Ⅲ「脳転移をおこした乳がん患者のチームでの取り組み」 愛野記念病院 看護師 菅 美由紀 氏 参加者:70名</p>
<p>2010年 10月15日(金) 19:00~</p>	<p>③長崎地区緩和ケア研修会 (OPTIM 後援) オープニングコメント「OPTIMの活動と今後の地域ケア」 白髭内科医院 院長 白髭 豊 先生 講演:「鎮痛薬としてのアセトアミノフェンの特徴と今後の課題」 昭和薬品化工株式会社 シンポジウム ①医師の立場から「高容量アセトアミノフェンを用いたがん性疼痛の治療について」 社会保険中京病院 緩和ケアチーム専従医師 吉本 鉄介 先生 ②薬剤師の立場から「がん性疼痛に用いる薬剤の特徴を考える (非オピオイド鎮痛薬を中心に)」 長崎大学病院 緩和ケアチーム 薬剤師 龍 恵美 先生 ③看護師の立場から「痛みの治療に直結する痛みの評価について」 長崎大学病院 がん性疼痛認定看護師 松尾 久美 先生 パネルディスカッション</p>
<p>2011年 2月5日 15:00~17:00</p>	<p>④長崎県在宅医療従事者研修 (認定NPO 法人 長崎在宅 Dr. ネット主催 OPTIM 長崎後援) 金沢のいのちによさしいまちづくりと聞き書きのすすめ 講演「いのちによさしいまちづくり—いのちに寄り添う実践から—」 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 助教 榊原 千秋 講演「人生を看よう、人生を聴こう—聞き書きのすすめ」 作家 日本聞き書き学会講師 小田 豊二 参加者:75名</p>
<p>2011年 3月4日 18:45~20:50</p>	<p>⑤第3回緩和ケアチーム症状緩和検討会 (OPTIM 長崎後援) パネルディスカッション「進行がん患者さんへのリハビリ介入の現状と問題点」 特別講演「がん患者に対する医学的リハビリテーション —クリニカルパスカ?緩和ケアか?」 講師:安部 能成 (千葉県立保健医療大学健康学部 准教授) 参加者:90名</p>

Ⅲ. 地域報告

2011年 3月12日 14:00~16:00	⑥認定 NPO 法人 長崎在宅 Dr. ネット 第2回市民公開講座 (OPTIM 長崎後援) 講演「長崎での在宅医療の現状～認定 NPO 法人長崎在宅 Dr. ネットのご紹介～」 託摩 和彦 (たくま医院院長) 特別講演「在宅と井戸」 徳永 進 (野の花診療所 院長) 参加者: 134名
-------------------------------	---

2) 医療用麻薬管理取扱いに関する作業部会

作業部会発足の経緯

2008年6月に開催した第2回長崎地域運営会議にて、長崎市医師会会員に実施した医療用麻薬廃棄に関するアンケート結果を報告

薬剤師会会長より、市内保険薬局の麻薬免許保有率は7～8割。がんの終末期になるとさらに医療用麻薬の処方ケースは少ないと思われる。今後、緩和ケアが普及してくると、在宅療養での医療用麻薬の処方、使用量が増加することが予測される。また、老老介護や独居など医療用麻薬の内服や管理に見守りが必要となってくるケースが増えてくると予測できる。以上の点より医療用麻薬(余剰医療用麻薬)の管理の必要性があることが示唆されたため、医療用麻薬管理取扱いに関する作業部会を立ち上げて以下の内容を実施した。

作業部会で取り組んだ内容

①医療用麻薬リーフレットの作成 (2008年度)

患者・家族へ、不要となった医療用麻薬の薬局への持ち込みを啓発するリーフレットの作成を企画。2009年3月に「医療用麻薬リーフレット」としてハガキサイズ7,000枚(薬袋添付用)A4サイズ7,000枚(患者・家族への説明、配布用)を作成し、長崎市薬剤師会より、初回分として各20部を長崎市内の350件の保険調剤薬局に配布した。

「医療用麻薬パンフレット」



②在宅療養で使用される薬剤や機材の供給および廃棄システムの構築と検証

長崎市医師会としての現状把握(アンケート調査等)を実施した。

アンケート調査の結果報告は以下の通りである。

- ◆長崎市医師会 A 会員の医師の麻薬免許保有率は7～8割。終末期の麻薬取扱いになるとさらに少ないと思われる。今後、麻薬廃棄処分を依頼されるケースは増えてくるとと思われる。
- ◆麻薬回収は法的には努力目標となっている。
- ◆長大薬剤部では、持ち込まれた麻薬については廃棄処分をしている。

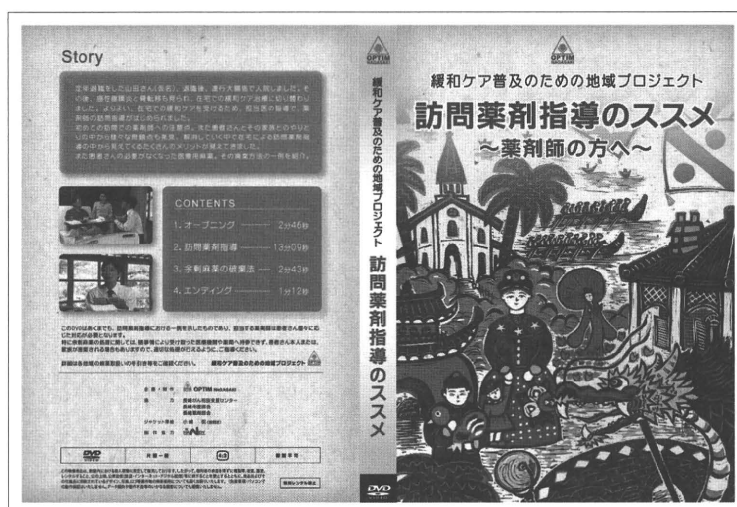
Ⅲ. 地域報告

- ◆基本的な考え方として、処方後のオピオイドについては、患者の財産とみなされ、医療用麻薬の廃棄に関しても患者・家族が行うものである。ただし、訪問薬剤指導を実施している薬剤師は、患者が処方されている医療用麻薬をきちんと内服できているか指導・管理する義務が生じる
- ◆医療用麻薬の廃棄に関する規定を検討するのであれば、医師が処方する段階での管理や患者・家族への適正使用（内服へのコンプライアンス）の教育・啓発を含めて、今後検討していく必要がある。余剰医療用麻薬廃棄に関しては、医療用麻薬管理取扱いに関する作業部会の検討事項として継続した話し合いを持つこととする。

③「訪問薬剤指導のススメ～薬剤師の方へ～」の制作（2008年～2009年）

DVD 作成の目的：在宅緩和ケアにおける医療用麻薬の適正使用に関しては、積極的な薬剤師の関与が必要となる。そこで、医療用麻薬廃棄に関する啓発と訪問薬剤指導を担当する保険薬局の薬剤師への教育資料として作成を計画した。2008年度第4回の作業部会より、具体的な内容・シナリオ・完成までのタイムスケジュールなどを協議。8月にDVDの試写を行い、最終的な意見を集約し、12月初旬に完成。長崎市薬剤師会会員の開局薬局約350施設と長崎市内の17施設の病院薬剤部に発送

「訪問薬剤指導のススメ」DVD ジャケット



④2009年10月31日薬剤師向け研修会「在宅における薬剤師の役割と実際」の開催

研修会の内容として、医療用麻薬の適正管理や訪問薬剤指導について企画。講師として、緩和ケアチームに所属し、患者の薬剤指導に定評のある病院薬剤師と積極的に訪問薬剤指導を実践している開局薬局の薬剤師を選定した。（詳細については「医療者向けセミナー薬剤師向けを参照」）

⑤第19回日本医療薬学会へのブース出展

長崎で開催された第19回日本医療薬学会に OPTIM としてブースを出展し、作成した DVD 「訪問薬剤指導のススメ」を公開。希望者には、後日上記 DVD を郵送で配布した。

第19回日本医療薬学会 ブース出展

日時：2009年10月24日(土)、25日(日)

場所：長崎ブリックホール

⑥「訪問薬剤指導における医療用麻薬の廃棄チラシと DVD の活用についての調査」実施

◆調査目的

2008年度に作成した「医療用麻薬廃棄パンフレット」と2009年度に作成した DVD 「訪問薬剤指導のススメ」がどの

Ⅲ. 地域報告

程度活用されているかを把握し、その効果について客観的に検証することで今後の活動の指針に資する

◆調査方法

自記入式アンケート調査

◆調査対象者

長崎市内の薬剤師310名

◆回収票

216票（回収率69.7%）

◆調査時期

2010年8月～9月

◆調査票およびアンケート調査結果

調査票については下記参照

2 がん患者・家族・地域住民への情報提供

1) リーフレット・冊子・ポスターの配布・掲示

2008年度

リーフレット・冊子・ポスターの設置

- ①ポスターは市内全病院、医師会地域緩和ケア連携医師、リンクスタッフへ、リーフレット、冊子には、プロジェクトの運営委員およびコアリンクナースが所属する施設及び地域緩和ケア連携医師（診療所）、リンクスタッフ（多職種・多機関）の就任同意がある施設へ設置をお願いした。

2008年4月：設置場所 長崎市医師会とプロジェクト協力施設など182施設

- ②公共施設（市役所・行政センター・ふれあいセンター・社会福祉協議会）に設置（JR 駅、路面電車、ショッピングセンターといった施設に関しては情報を収集したが、配置はできなかった）
- ③メディア取材への対応

取材依頼は文章でいただき、取材内容・質問事項を、メーリングリストでプロジェクトコアメンバーに周知後に回答することにした。

2008年度ポスターは、研究本体を使用

2009年度ポスター（メッセージ性を強くするため、文語をかえて、4枚のポスターにストーリー性を持たせた

第1号



第2号



Ⅲ. 地域報告

『訪問薬剤指導における医療用麻薬破棄チラシとDVDの活用についての調査』アンケートへのご協力のお願い

Q1 あなたは、訪問薬剤指導の経験がありますか。(医療用麻薬の取扱いの有無に限らず)下記から当てはまるものに○をつけて下さい。(○は1つ)

- 1 現在訪問薬剤指導を行っている
- 2 過去に訪問薬剤指導を行った経験はあるが、現在は行っていない
- 3 訪問薬剤指導の経験はない ⇒Q1付問へ

【Q1で3. 訪問薬剤指導の経験はないと回答された方へ】

付問1 訪問薬剤指導の経験がない理由についてお知らせ下さい。下記から当てはまるものに○をつけて下さい。(○はいくつでも)

- 1 依頼がない
- 2 薬剤師が一人であるため訪問薬剤指導の時間が作れない
- 3 訪問薬剤指導を行うのに自信がない
- 4 訪問薬剤指導をやりたいと思わない
- 5 その他 ()

Q2 あなたは、この1年間で、医療用麻薬の調剤を行ったことがありますか。(○は1つ)

- 1 調剤は行っていません ⇒Q2付問1へ
- 2 調剤を行った ⇒Q2付問2へ

【Q2で1. 医療用麻薬の調剤は行っていませんと回答された方へ】

付問1 この1年間で医療用麻薬の調剤を行っていない理由についてお知らせください。下記から当てはまるものに○をつけて下さい。(○はいくつでも) ⇒回答後Q3へ

- 1 処方依頼がない
- 2 ゲットストックの問題
- 3 麻薬小売業の届け出をされていない
- 4 その他 ()

【Q2で2. 医療用麻薬の調剤を行ったと回答された方へ】

付問2 どこで医療用麻薬の調剤並びに薬剤を行いましたか。(○は1つ)

- 1 薬局窓口のみ
- 2 在宅(訪問薬剤指導)のみ
- 3 薬局窓口と在宅の両方

Q3 あなたは、DVD「訪問薬剤指導のススメ」をどのように活用しましたか。(○はいくつでも)

- 1 研修会(薬剤師・他職種向け)
- 2 自己啓発
- 3 患者資料(薬剤師向け・学生向け)
- 4 その他 ()
- 5 DVDは見えていない ⇒Q3へ

Q4 あなたは、DVD「訪問薬剤指導のススメ」を見たことをきっかけに訪問薬剤指導を実施しようとお感じになりましたか。(○は1つ)

- 1 DVDをみて訪問薬剤指導を始めた
- 2 実施しようと思ったが条件が整わなかった
- 3 DVDを見たが実施しようとは思えなかった
- 4 DVDを見る前から訪問薬剤指導は実施していた

Q5 あなたは、訪問薬剤指導について、DVD「訪問薬剤指導のススメ」の中でどの内容が役に立ちましたか。(○はいくつでも)

- 1 はじめの訪問時の注意点
- 2 訪問先での医療用麻薬についての説明(副作用の説明、投薬の確認をきめて)
- 3 保険薬局に戻ってからの関係各所との連絡・調整
- 4 その他(具体的に)

Q6 あなたは、DVD「訪問薬剤指導のススメ」の中の余剰薬品の破棄方法についてどの程度理解できましたか。(○は1つ)

- 1 十分理解できた
- 2 理解できた
- 3 どちらでもない
- 4 あまり理解できなかった
- 5 理解できなかった(理由:)

Q7 あなたは、今後、DVD「訪問薬剤指導のススメ」に追加して盛り込んだほうがよいと思う内容は何かございますか。ありましたら出来るだけ具体的にお知らせ下さい。

【Q2で2. 医療用麻薬の調剤を行ったと回答された方へ】

付問3 医療用麻薬の破棄に関して、患者さんに説明する際に、「医療用麻薬の破棄チラシ」を使用して説明されましたか。(○は1つ)

- 1 チラシは使わなかった ⇒付問4へ
- 2 チラシを使って説明した ⇒付問5へ

【付問3で1. 説明にチラシは使わなかったと回答された方へ】

付問4 医療用麻薬の破棄に関する説明で、「医療用麻薬の破棄チラシ」を使用しなかった理由はどのようなことですか。(○はいくつでも) ⇒回答後Q3へ

- 1 説明するのに使いづらい
- 2 必要性を感じなかった
- 3 必要な情報が足りない
- 4 説明時に持参し忘れた
- 5 チラシの在庫がなかった
- 6 その他 ()

【付問3で2. チラシを使って説明したと回答された方へ】

付問5 「医療用麻薬の破棄チラシ」は、A4版サイズとハガキサイズのどちらをお使いになりましたか。両方の大きさのものをお使いの場合は、両方に○をつけてください。

薬局窓口	⇒	1 A4版を使った	2 ハガキ版を使った
在宅(訪問在宅指導)	⇒	1 A4版を使った	2 ハガキ版を使った

【付問3で2. チラシを使って説明したと回答された方へ】

付問6 「医療用麻薬の破棄チラシ」は、患者さんへの説明に際してどの程度役立ちましたか。(○は1つ)

- 1 とても役に立った
- 2 役に立った
- 3 どちらでもない
- 4 あまり役に立たなかった
- 5 役に立たなかった(理由:)

【付問3で2. チラシを使って説明したと回答された方へ】

付問7 患者さんへの説明の際、「医療用麻薬の破棄チラシ」の内容について、何か質問を受けたことはありましたか。受けた質問について具体的にお知らせください。

Q8 この1年間で患者・ご家族から余剰薬品の破棄の持ち込みがありましたか。(○は1つ)

- 1 持ち込みがあった ⇒Q8付問1へ
- 2 持ち込みはなかった ⇒P1へ

【Q8で1. 持ち込みがあったと回答された方へ】

付問1 あなたは、どの形態について余剰薬品の破棄を行いましたか。(○はいくつでも)

- 1 錠剤
- 2 液剤
- 3 注射剤
- 4 貼付剤

【Q8で1. 持ち込みがあったと回答された方へ】

付問2 あなたは、余剰薬品の破棄にありDVD「訪問薬剤指導のススメ」は役に立ちましたか。(○は1つ)

- 1 十分に役に立った
- 2 役に立った
- 3 どちらでもない
- 4 あまり役に立たない
- 5 役に立たなかった(理由:)
- 6 DVDは見えていない

【Q8で1. 持ち込みがあったと回答された方へ】

付問3 あなたは、余剰薬品の破棄後に「調剤済薬品破棄届け」を提出しましたか。(○は1つ)

- 1 提出した
- 2 提出していない/しなかった

■最後に、あなたご自身(記入されている方)についてお伺いします。

P1 あなたの所属先はどちらですか。あてはまるものに○をつけてください。(○は1つ)

- 1 病院薬剤部
- 2 大学関係者
- 3 保険薬局
- 4 その他 ()

【P1で1. 病院薬剤部とご回答された方へ】

付問1 あなたは、今まで保険薬局(調剤薬局)の薬剤師と連絡をとったことがありますか。(○は1つ)

- 1 連絡したことがある
- 2 連絡したことがない

ご協力誠に有り難うございました。

アンケート内容についてのお問い合わせ先
〒650-8511 長崎市港町2-22 長崎市薬剤師会内
長崎がん相談支援センター
TEL:095-833-0621
担当: 平山啓彦

Ⅲ. 地域報告

第3号



第4号



2010年度ポスターオリジナル) …OPTIM メンバーの医師が作成した

A3サイズ



B2サイズ



2) 映像メディアの視聴

市民健康講座開催時、ロビーや館内での待ち時間に流して使用

3) 図書(緩和ケアを知る100冊)の設置

2008年度

◆長崎市立図書館、長崎大学病院、日本赤十字社長崎原爆病院、長崎市立市民病院、長崎がん相談支援センター(面談室)の5箇所に設置した。貸出しにあたり、市立図書館以外の全施設に対して、100冊のリストに沿って、「本にナンバースートを貼る」、「本の最終ページに貸出カードを貼る」、「貸出簿を作る」という作業を行った。

◆なお、拠点病院では、100冊のリストと案内文をつけて各病棟に配布している。その広報もあり看護師を中心に院内スタッフへの貸出からスタートしている。

◆市民健康講座開催時や行政のイベントに参加するときは、100冊の移動用本棚で、ロビーやブーステント内に配置し、

Ⅲ. 地域報告

自由に読んだり貸出が行えるようにした。

2009年：聖フランシスコ病院、朝永病院に追加設置した。

【緩和ケアを知る100冊 & DVD コーナー】

緩和ケアを知る100冊の設置状況



聖フランシスコ病院 1階ロビー



4) 講演会の開催

(1) 市民健康講座の開催

長崎市医師会が長崎市民を対象に行っている「市民健康講座」の中で、OPTIM 介入の2008年～2010年度に「がん・緩和ケア」のテーマで共催して開催した。

2008年度

日 時	内 容
2008年 5月24日(土) 14:00～16:00	<p>第14回長崎市医師会市民健康講座 がんの痛みに苦しまないで～住みなれた家、住みなれた長崎で～ オープニングコメント 「地域でがん患者さん・ご家族を支えるために」 国立がんセンター中央病院 緩和医療科医長 的場 元弘</p> <p>第一部：がんをよく知るために 「告知のときー「がん」と「こころ」ー」 長崎大学精神・神経科 准教授 中根 秀之 「住み慣れた家に帰ろう」 医療法人たぐま医院 院長 詫摩 和彦 「長崎がん相談支援センターの紹介」 長崎がん相談支援センター 吉原 律子</p> <p>第二部：痛み止めを上手にお使いいただくために 「痛みを和らげよう～医療麻薬で中毒にはなりません～」 長崎大学内臓薬理学 准教授 上園 保仁先生 「我慢せず、痛みを訴える賢いがん患者になろう！」 埼玉医科大学 客員教授 武田 文和先生 参加者：431名（一般市民：217名 医療従事者：214名）</p>
2008年 11月29日(土) 14:00～16:00	<p>第16回長崎市医師会市民健康講座 がんの痛みに苦しまないで～あなたの家にかえろう～ 講師：桜井 隆（さくらいクリニック 院長） 参加者：184名（一般市民：71名、医療関係者：113名）</p>

Ⅲ. 地域報告

2009年度

日 時	内 容
2009年 6月27日(土) 14:00～16:00	<p>第19回長崎市医師会市民健康講座 がんの痛みに苦しまないで ・がんの告知の時に患者さん・ご家族をどう支えるか? ・痛みを和らげる医療用麻薬のお話 ・地域にあるがん相談支援センターの紹介</p> <p>第1部 がん患者さんを支える～「こころ」と「からだ」の痛みのケア 第2部 地域で支える～相談支援センターにご相談ください～</p> <p>講師：中尾 勘一郎 (ホーム・ホスピス中尾クリニック 院長) 上園 保仁 (国立がんセンター研究所 がん患者病態生理研究部 部長) 宮川 江利 (長崎市立市民病院) 中島 誠司 (日本赤十字社長崎原爆病院) 青木 美帆 (長崎大学病院) 吉原 律子 (長崎がん相談支援センター)</p> <p>参加者：186名 (一般市民：119名、医療従事者：67名)</p>
2009年 11月29日(土) 14:00～16:00	<p>第20回長崎市医師会市民健康講座 「がん哲学とがん哲学外来」</p> <p>講師：樋野 興夫 先生 (順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授)</p> <p>参加者：150名 (一般市民85名、医療従事者65名)</p>
2010年 3月27日(土) 14:00～16:00	<p>第22回長崎市医師会市民健康講座 「がんと共に生きる」</p> <p>講師：立花 隆 氏 (評論家・ジャーナリスト)</p> <p>参加者：約1500名</p>

2010年

日 時	内 容
2010年 7月3日(土) 14:00～16:00	<p>第23回長崎市医師会市民健康講座 がん治療最前線～手術によらぬ新たな取り組み～ 「高精度放射線治療について」</p> <p>講師：小幡 史郎 (長崎県島原病院 放射線科 診療部長)</p> <p>「抗がん剤治療について ～がんの治療の中でどのような役割を果たすか?～」</p> <p>講師：奈良林 至 (埼玉医科大学国際医療センター包括的がんセンター/緩和医療科 教授)</p> <p>参加者：100名 (医療関係30名、一般市民70名)</p>
2008年 11月29日(土) 14:00～16:00	<p>第26回長崎市医師会市民健康講座 がん検診・治療から緩和ケアまで～がんになっても前向きに生活するために～ ～オープニングコメント～ 「我が国における医療の現状と今後の展望」 独立行政法人国立がん研究センター 若尾 文彦 「長崎市のがん検診について」 長崎市健康づくり課 荒木 一彦 「がんになっても自分らしく過ごすために一心の持ち方のコツ」 名古屋市立大学大学院医学研究科 准教授 明智 龍男 「がんのつらさを減らしましょう～緩和ケアがお手伝い～」 独立行政法人国立がん研究センター 的場 元弘</p> <p>参加者：161名 (医療関係53名、一般市民108名)</p>

(2) セルフケアアップ講座の開催

2010年度は、がん患者・家族を対象とした「セルフケアアップ講座」を開催した。目的は①日常生活の基本である「食事」「排泄」のセルフケアの向上 ②ともに支え合う組織作りとして「がんサロン」活動を知る、こととした。

2010年度

Ⅲ. 地域報告

日 時	内 容
5月15日(土) 14:00~16:00	第1回セルフケアアップ講座 「がん療養における食事のヒント」 講師：古川 美和 氏（長崎市医師会 管理栄養士） 場所：桜馬場ふれあいセンター 第1研修室 参加者：29名
6月5日(土) 14:00~16:00	第2回セルフケアアップ講座 「コンチネンス（排泄）ケア」 講師：榊原 千秋 氏（金沢大学地域環境保健課語学分野 看護師） 場所：長崎市男女協働参画推進センター アマランス 参加者：43名
9月11日(土) 14:00~16:00	第3回セルフケアアップ講座 「地域と仲間とともに支え合う島根のがんサロン」 講師：佐藤 愛子 氏（ちょっとよってみません家代表） 小豆澤 伸司 氏（島根県健康福祉部医療対策課） 今岡 登志子 氏（ほっとサロン世話役） 小林 貴美子 氏（雲南サロン 陽だまり世話役） 参加者：58名（一般市民33名、医療・行政・報道関係者25名）

5) 地域メディアの活用

（OPTIM 活動を紹介したもの）

2007年

長崎新聞 2007年12月4日



2009年度

①長崎新聞掲載記事

2009年3月29日(日)7面

緩和ケア普及のための地域プロジェクト 長崎 (図1)

2009年6月14日(日)日刊14面

がん緩和ケア 痛みや心の悩み相談を 27日市民公開講座 長崎でモデル事業 (図2)

2010年3月15日

がんと共に生きる 痛みとどう向き合う (図3)

2010年度

2010年9月12日(日)

がんサロン「支えの場」長崎市医師会 島根の先進例を報告(図4)

図1 緩和ケア普及のための地域プロジェクト 長崎

緩和ケア普及のための地域プロジェクトは、平成20年度から全国4つの地域において実施しているもので、地域の方々の精神的な緩和ケアの提供に取り組んでいます。この成果は、将来、全国の緩和ケアの普及に生かされています。

プロジェクトの拠点 長崎市医師会「長崎がん相談支援センター」と これからの「地域緩和ケア」へ地域が連携して緩和ケアに取り組みます。

地域の皆さまの皆さまへのご声かけです！
 緩和ケアの相談センター
 21005-8553-65621
 (月～金曜 9時～17時) 土曜 9時～12時
 (長崎市医師会がん相談支援センター)

緩和ケアとは、がんにかかり、心身の痛み、不安、悩み、苦しみ、悲しみ、死生観の悩みなど、患者さんやご家族が直面するさまざまな問題を解決する医療のことです。病院の病室や在宅の場所を問わず、いつでもどこでも提供されることを目指しています。

長崎市医師会 市民健康推進課
 〒850-0003 長崎市平野町1-1-1
 TEL: 09-5815-0081 FAX: 09-5815-0082

図2 がん緩和ケア 痛みや心の悩み相談を 27日市民公開講座 長崎でモデル事業

がん緩和ケア 痛みや心の悩み相談を 27日市民公開講座 長崎でモデル事業

長崎新聞 2010年9月14日(日) 14頁

図3 がんと共に生きる 痛みとどう向き合

痛みとどう向き合う 27日、長崎で市民講座

長崎新聞 2010年9月14日(日) 14頁

図4 がんサロン「支えの場」長崎市医師会 島根の先進例を報告

がんサロン「支えの場」 長崎市医師会 島根の先進例を報告

2010年(平成22年)9月12日 日曜日 ローカル

がんの療養・医療が進み、不安や悩み、苦しみの声も増えています。がんサロン「支えの場」は、がん患者さんやご家族の悩みを解決するための場です。島根県で先進的に取り組まれているがんサロンの先進例を報告します。

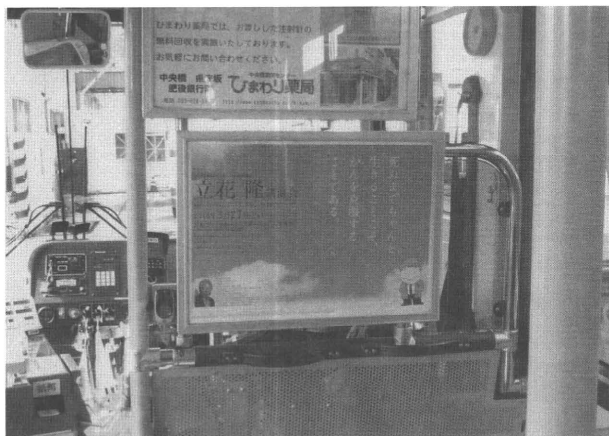
がんサロンの役割は、患者さんやご家族の悩みを解決することです。がんサロンの役割は、患者さんやご家族の悩みを解決することです。がんサロンの役割は、患者さんやご家族の悩みを解決することです。

Ⅲ. 地域報告

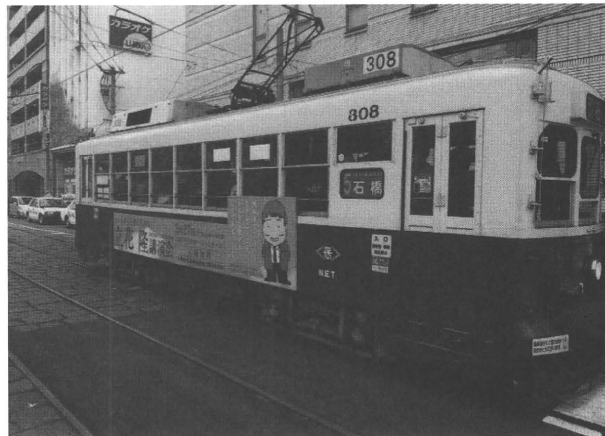
②長崎市医師会市民健康講座の広報

2010年度…立花 隆氏を迎えるにあたり広報方法を拡大した
路面電車や路線バスの広告欄を使用 (2010年3月開催第22回)

長崎バスの広告



長崎電気軌道(路面電車)の広告
(公告期間約1カ月)



長崎新聞に市民健康講座開催広告を掲載
(2010年3月に2回掲載)



6) その他のトライアル

2008年度

①「OPTIM NAGASAKI」オリジナルグッズ(シール、バッジ、バッグ)の作成と配布

2008年、ロゴを入りUSB(180)ステッカー(1000)

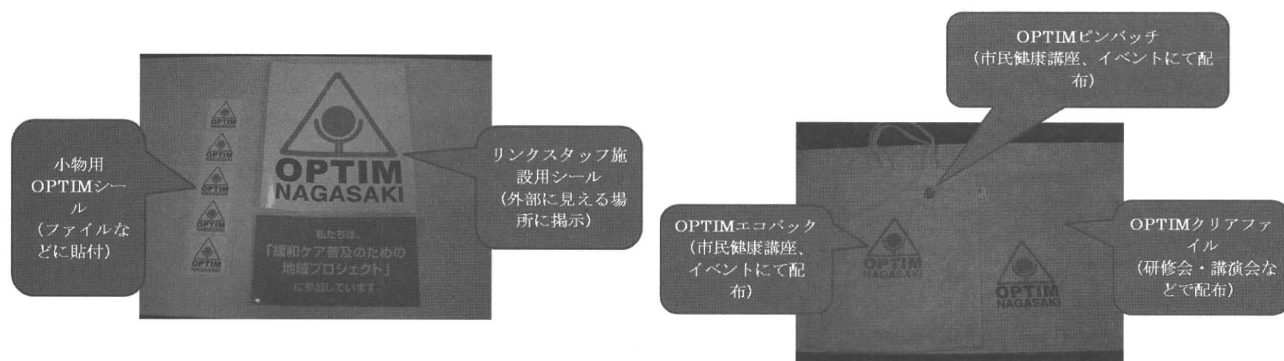
Pinバッジ(2000)、エコバック(わたしのカルテが入る大きさ2000)を作成した。

そして以下の方法で配布貼付。

- USBにはプロジェクト説明スライドをいれ、地域連携医師やリンクスタッフの所属する事業所に送付。
- ステッカーは、地域連携医師やリンクスタッフの所属する事業所に3枚ずつ送付し事業所の玄関や窓(外から見えるところに)に貼付。
- エコバッグは、市民健康講座の際の資料いれとして、また行政主催のイベント参加時の宣伝として市民の皆さんに配布。

Ⅲ. 地域報告

○ピンバッジやクリアファイルは、地域リンクスタッフ対象の研修会（講演や地域カンファレンスなど）で配布。



■オリジナル・グッズの効果

- ・エコバッグは、目はひくが実用性に欠けるということで、次年度は大きく丈夫なものにした。
 - ・ピンバッジは、運営委員やリンクスタッフとして活動する際、会議や研修会の時に意識的につけていただいている。これによりプロジェクト参加へのモチベーションが上がると期待している。
- 特に、研修会で司会、ファシリテータを務める時にはつけて活動している。

2009年度

前回作成したオリジナルグッズの修正点を踏まえて、すこし厚みとマチ部分があるエコバックとカットバンと綿棒がセットになったエイトバンを作成



Ⅲ. 地域報告

②地域住民（患者・家族を含む）に対する広報活動への取り組み

2008年度

地域ふれあい医療懇話会の中で、「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」を紹介し地域への広報を依頼し以下の日程で実施した。

説明者：長崎地域責任者（長崎市医師会長）長崎地域担当者（長崎市医師会理事）

東部 7月29日(火)長崎市保健環境自治連合会：7名 市医理事：13名 市職員：1名

西部 8月4日(月)長崎市保健環境自治連合会：10名 市医理事：14名 市職員：3名

南部 8月11日(月)長崎市保健環境自治連合会：10名 市医理事：15名 市職員：2名

北部 8月25日(月)長崎市保健環境自治連合会：10名 市医理事：14名 市職員：2名

③自治会連合会説明会

上長崎地区自治会で「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」の説明会を実施

日時：2008年6月2日月曜日 19:00～20:00

場所：下西山町センター

参加者：自治会長以下17名

④矢の平老人会説明会

日時：2008年7月19日土曜日 11:00～12:00

場所：矢の平公民館参加者数：28名

開催形式：老人会会合での説明会

アナウンス方法：矢の平老人会内での広報

演題：「緩和ケア普及のための長崎プロジェクト」

演者：平山 美香（長崎がん相談支援センター 専従看護師）

出席者：白髭 豊（地域担当者）・木場 英郎（長崎がん相談支援センター 事務）

プログラム：

地域担当者挨拶（白髭）

「緩和ケア普及のための長崎プロジェクト」説明（平山）

「我が家へ帰ろう」ダイジェスト版 DVD 上映

使用した資料：啓発班リーフレット・啓発班冊子・「我が家へ帰ろう」ダイジェスト版（DVD）・Power Point スライド

■特記事項

今回の講演会は、5月24日に実施した長崎市医師会 市民健康講座「がんのいたみに苦しまないで住み慣れた家、住み慣れた長崎で」を聴講した市民（診療所の患者）からの直接の依頼であった。やはり、市民啓発への足掛かりとして、市民健康講座は有効であると思われる。

講演の内容で工夫した点は、高齢者の方々が聴衆であるということを考慮し、プロジェクトの説明の焦点を「緩和ケアとはなにか」と「地域の中のがん相談支援センター」という2点を強調するように心がけた。また、5月24日に実施したアンケート結果をスライドに取り入れて、市民の方々が療養場所についてどう考えているのかをフィードバックした。

最後にダイジェスト版ではあったが、「我が家へ帰ろう」のDVDを上映し、「がんになっても普通の自分らしい生活を」という点を強調し、締めくくった。

⑤特定高齢者介護予防事業、高齢者教養講座での講話

介護予防事業（閉じこもり・うつ・認知症、運動機能）

各事業プログラムのミニ講話として依頼を受けた。

日時：2008年8月20日

テーマ：「がんと緩和ケアのお話」（30分）

毎回参加人数は、8名～15名程度。

予防事業の種類に関係なくがんという病気に関する参加者の関心は高く、質問も多い。

質問内容で多いのは、「どうすればがんを予防することができるか…」「痛みはほんとうにがまんしないで言っているのか?」ということであった。

また、参加者の反応から、緩和ケアということばや内容には、ややとっつきにくさがあるように感じたが、「がん」という病気については関心が高いので、ここをきっかけにして啓発していくことが効果的と考えられる。したがって、介護予防事業所へのPRも必要。

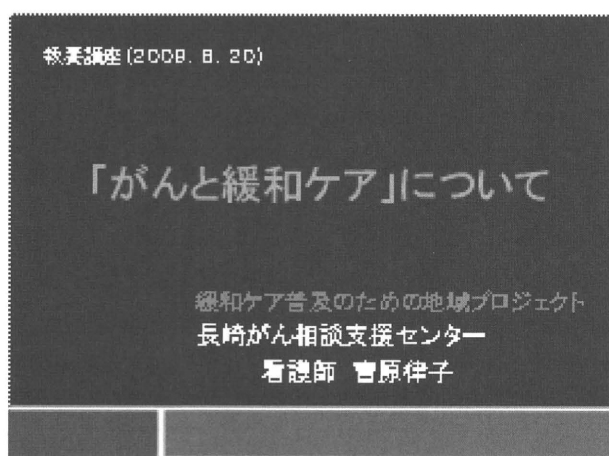
高齢者教養講座

日時：2008年8月20日 講師 吉原 律子（長崎がん相談支援センター看護師）

テーマ：「がんと緩和ケアのお話」（60分）（写真と使用スライド参照）

参加者は比較のお元気な方ばかりで、地域のなかでも自治会活動に何らかの役割で参加している人が多い。やはり質問が多く（内容は、がんの予防法やがん体験談）、緩和ケアに関する関心も高いので、市民健康講座の小規模出前講座として開催しつみ重ねると、かなり効果的と思われる。

いずれも、講演後に参加者から「分かりやすい」という言葉や緩和ケアに関する相談を受けることもあり、がんと合わせて話した方が緩和ケアというイメージが強く浸透すると思われる。



がんという病気について

- からだをつくっているたくさんの細胞の中の、たった一つが何らかの原因でがん細胞になります。
- このがん細胞は、正しい細胞とはまったく違う分裂のしかたをくりかえしながら、少しずつ大きくなります。
- からだのどこにでも発生する可能性があります。
- 一個のがん細胞大きくなり、からだの異常としてあらわれるまでに長い時間がかかります。
- 大きくなったがんは、まわりの細胞までまきこんだり、他のところに「飛び火」したりします。

がんの予防について

- 予防の決め方は、がんの種類によって異なります
- がんになる原因をつきとめ、これを遠ざけてがんにならないようにする(1次予防)
 - 化学物質・アスベスト、食品添加物、医薬品
 - ウイルス感染・ワクチンによる予防
 - 生活習慣・喫煙、食習慣などの生活習慣
 - がんになっても、早期に発見し、早期に治療することでがんが死なないようにする(2次予防)
 - 定期検診、がん検診→疑いがある場合→がん診断
 - (X線・CT・MRI・超音波・生検・細胞診)

がんの治療について

- がんのかたまり切りとる → 外科療法
- がんのかたまりを焼く → 放射線・レーザー照射療法
- くすりでやっつける → 化学療法(抗がん剤)
- 弱った免疫力をたかめる → 免疫療法

がんの治療をはじめるにあたっては、外科医・内科医・放射線科医がよく話しあって、その人にとって最良の治療法で取り組まれます。

がんの痛みやつらさ

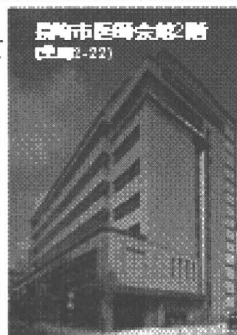
- がんには病気を告げられるつらさ、病気の進行からの症状や治療のつらさなどがあります。
- 痛みやかからだのだるさ、息苦しさや吐き気などのからだのつらさ。
- この先の心配や不安、孤独感、なにもする気になれない…などのこころのつらさ。
- つらさをそのままにしておくと、自分らしく生活していくエネルギーがなくなっていくと思います。がまんせずにちゃんと伝えることが大切です。

がんになって心配なこと

- がんといわれた。何も手につかない…
- 診断は本当なのだろうか？ 間違いでは？
- 治療法を決めるようにいわれたが決められない。
- 家族にどう話したらいいのだろうか？
- これからどうなる？ 先のことを考えておきたい。
- 治療にかかるお金は？ 払えるか心配。
- 家で療養したいけどできるだろうか？
- 治療や副作用に関する情報がほしい。
- 主治医にいろいろ聞きたいけど話せない。

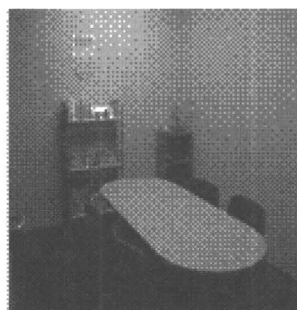
「長崎がん相談支援センター」です。

昨年4月から、地域の皆さん
身近な相談窓口として活躍して
います。



面接室

(来訪は、事前にご連絡いただくとありがたいです。)



- どなたでも相談でき無料です。
- 相談内容・個人情報
は守秘義務を厳守します。
- 他との連携・調整が
必要な場合は、ご相談者の了解のもと関連機関への情報提供を行います。

緩和ケアについて知ってください

- 緩和ケアは、病気の時期に関係なく、がんからくる様々なつらさをとるための方法です。
- がんの痛みは、くすり(痛み止め・医療用麻薬)でほとんど、とることができます。
 - 痛みやつらさは、がまんせずに伝えてください。
 - 痛みをとる医療用麻薬は、正しく知って、きちんと服用すれば怖いお薬ではありません。
 - 痛みやつらさに対応する専門家がいます。
 - 薬以外に看護や介護で軽くする方法があります。

がんに関して相談ができます

- 長崎がん相談支援センター(長崎市医師会2階)
相談と専門的緩和ケアへの助言もします
- 長崎大学医学部・歯学部付属病院
「がん診療センター・がん相談支援室」
- 長崎原爆病院「医療相談室」
- 長崎市民病院「地域医療連携室」

がんに関するいろいろジャンルの100冊の本があります。
自由に借りることができます。
100冊の本は市立図書館にも同じものがあります。

相談受付と方法 相談にあたる職種

受付時間
月曜日～金曜日
9:00～17:00
土曜日
9:00～12:00

相談方法

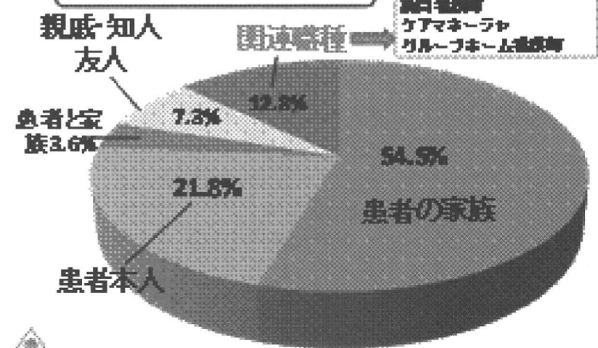
- 電話
- FAX
- 来訪
- 訪問 (お便りかた)

●長崎がん相談支援センターの8名の専任
社会福祉士

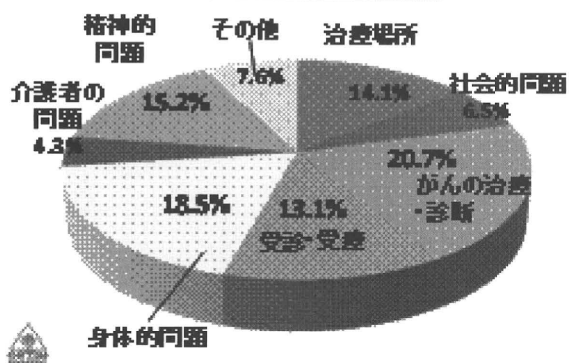
●その他にも

- 医師 (内臓・診療科の区分)
- 精神科医師
- 緩和ケア専門医師
- 臨床心理士
- 看護師 (緩和、訪問看護)
- 緩和ケアせどの認定看護師
- 薬剤師 (緩和、保険適応)
- 臨床栄養士

これまでのご相談者



これまでのご相談の内容



図書(緩和ケアを知る100冊)もあつちます



- 小学生のお子さんが読める本がら、一般の方、医療従事者むけに書かれた本まであります。
- がんという病気や緩和ケアについて広く知っていただくために選んだものです。
- 図書館でもご覧になれ、貸し出すこともできます
- 長崎市立図書館にもあります
- がん協の会館、聖フランシスコ会館、集光会館にもあります。

地域の皆さんに対して広報活動もしています。

皆さん(患者・家族を含む)への相談支援センターの案内や緩和ケアに関する説明会。



上長崎地区自治会連合会説明会



矢の平老人会説明会

市民健康講座(対象:一般市民)もしています

期数	題目	講師	会場
第19回 6/27(土)	第1部 がん患者も楽しめる「にこにこ」DVRの活用 第2部 緩和ケア-緩和ケアセンターに相談受診のしるし		会場名: 188名(一般市民:119名、医療従事者:69名)
第20回 10/17(土)	主題「がん治療の未来」	講師: 篠原 昌夫 先生 会場: 長崎市立図書館	
第22回 3/27(土)	主題「がん患者になって」	講師: 石橋 昌 氏 会場: 長崎ブリックホール	



⑥「健康長崎市民21」イベントへの参加

長崎市が主催する『健康長崎21』イベントに長崎市医師会 長崎がん相談支援センターとしてブースを出展した。

日時: 2009年9月20日(日) 10:00~15:00

場所: 水辺の森公園

内容: プロジェクト啓発ポスター、「緩和ケアを知る100冊」の展示

ブース内での出前相談

「我が家へ帰ろう!」DVD の上映

エコバック、三つ折りリーフレット、啓発冊子、ピンバッチの配布



Ⅲ. 地域報告

日時：2010年11月23日（火 勤労感謝の日）10:00～15:00

場所：長崎駅かもめ広場

主催：「健康長崎21」市民推進会議・長崎市

共催：長崎県

内容：がん・在宅療養のご相談はありませんか～長崎市医師会「長崎がん相談支援センター」

OPTIM 長崎の三つ折りリーフレット、啓発冊子、エコバック、エイトバンの配布

出張相談ブース（がんに関すること、在宅医療に関すること）

活動内容の掲示



3 地域の緩和ケアの包括的なコーディネーション

1) 緩和ケアに関する地域の相談機能・適切な専門緩和ケアの判断と紹介機能を持つ窓口の設置

2007年度

運営委員会で、設置場所についての検討を行った結果、地域住民のより身近な場所、地域の医療機関や診療所、病院間の連携がしやすいということで2008年4月、長崎市医師会2階保健福祉センター内に「長崎がん相談支援センター」を設置した。

■地域の中に相談窓口を置く目的

- 1) がん患者・家族、および一般住民のがんや緩和医療に関するより身近な相談窓口となる
- 2) 相談内容を関連機関と連携して改善し、スムーズな在宅移行と緩和ケアの導入で患者のQOLの向上を図る

1. 主な機能

- 1) 地域（患者・家族、一般住民）ならびに関連機関（リンクスタッフのいる医療・介護関連機関）からの相談窓口
- 2) 地域緩和ケアチームによる、緩和ケアに対するコンサルテーションと必要応じた出張コンサルテーション、訪問診療、訪問看護の提供である（図1 図2）

■長崎がん相談支援センターの周知（広報）

長崎がん相談支援センターの案内チラシ（図3）を作成し、市民健康講座、自治会説明会、在宅医講習会、地域連携講習会、各がん拠点病院相談窓口、参加医療機関地域連携室、地域緩和ケアリンクスタッフの事業所などで配布し利用を呼び掛けた。